

2017年度 キャリタス就活 学生モニター調査結果 (2016年1月発行)

第2回調査

1月1日時点の就職意識調査

就職活動本番を2カ月後に控えた1月1日時点で、2017年卒者学生の準備状況はどうなっているだろうか。キャリアス就活・学生モニターを対象に、就職意識および就職活動の準備状況などを尋ねた。前年同時期調査との比較や、昨年11月に実施した前回調査からの変化に着目して分析したい。

1. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

- 「将来性がある」46.4%、「給与・待遇が良い」41.9%、「福利厚生が充実している」39.4%
- 「給与・待遇」「福利厚生」は前年調査より増加し、労働条件重視の傾向強まる

2. 就職活動準備に関して

- 「学内ガイダンスに参加」75.7%、「業界研究・企業研究」74.9%、「自己分析」74.7%の順
- 「就職準備イベントに参加」が前年同期より増えるなど、早めの対策を重視

3. 現時点の志望業界

- 志望業界が「明確に決まっている」27.0%。11月調査より5.8ポイント増。
「決まっていない」は17.4%
- 志望業界1位「銀行」、2位「水産・食品」、3位「医薬品・医療関連・化粧品」。
上位は11月調査と変わらず

4. エントリーを決めている企業

- 「エントリーしようとしている企業がある」8割強 (85.4%)
- 具体的な社数は平均12.5社。5社以下が半数弱 (47.8%) だが、20社以上が1割強 (13.9%)

5. ベンチャー企業への関心

- ベンチャー企業への就職に関心があるのは、全体の2割強 (24.9%)。前年と同水準
- ベンチャー企業に限定したイベントに「参加したい」、全体の6割強 (62.2%)

6. 「雰囲気が良い」と感じる職場

- 「ワークライフバランスを重視している」63.3%、「役職や年齢に関係なく自由に物が言える」61.9%、「アットホーム」「部門間の交流やコミュニケーションが盛ん」56.5%

7. 就職後のキャリアプラン

- 「一つの定年まで」49.4%。9年ぶりに半数未満に低下

調査概要

調査対象：2017年3月に卒業予定の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）
回答者数：1,084人（文系男子351人、文系女子340人、理系男子244人、理系女子149人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2016年1月1日～6日
サンプリング：キャリアス就活2017学生モニター（2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」）

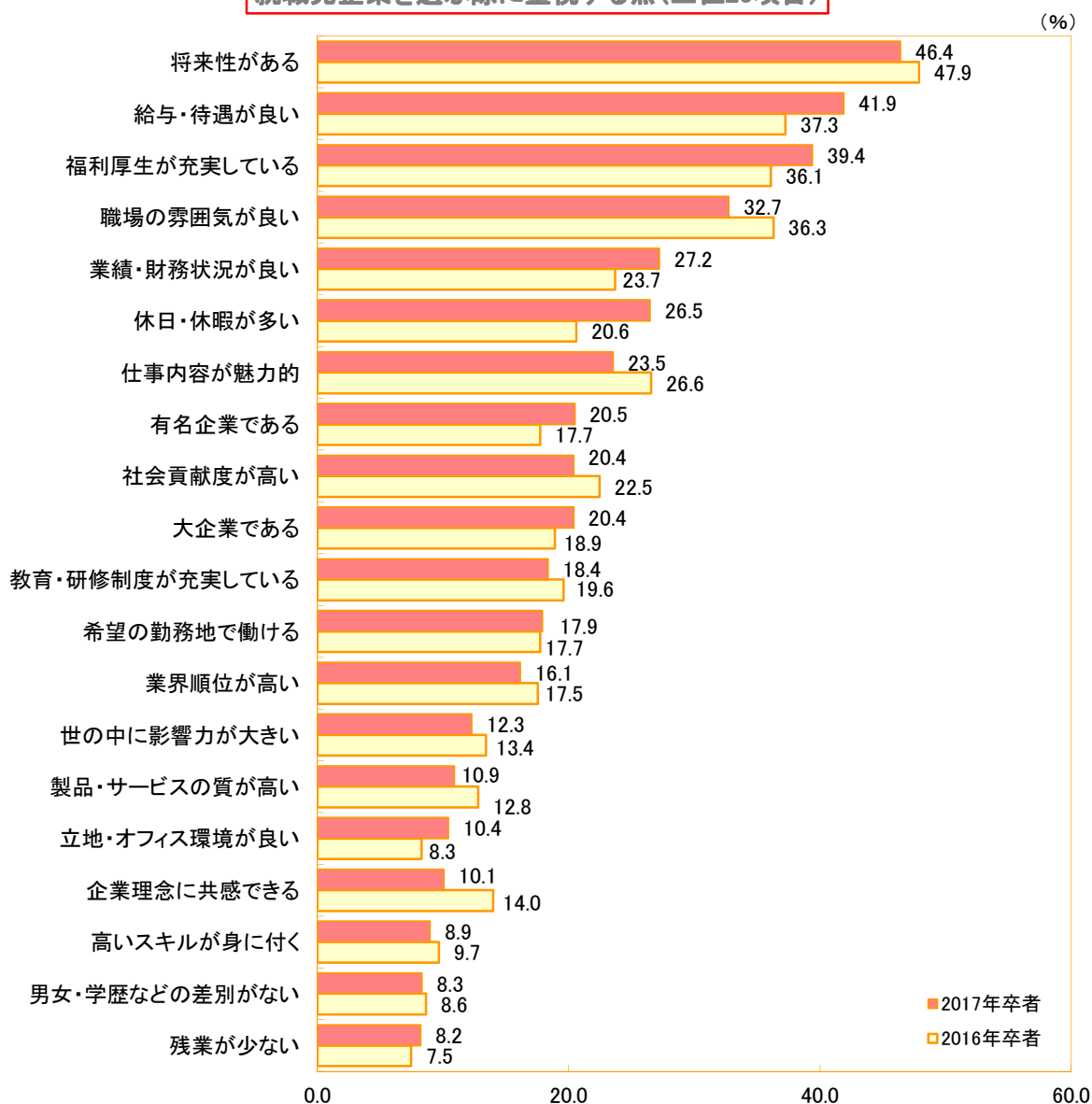
◆本資料に関するお問い合わせ先：03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

1. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

就職先企業を選ぶ際に重視する点を31項目の選択肢の中から5つまで選んでもらった。最も多いのは前年調査と同様「将来性がある」で、半数近くが選んだ(46.4%)。次いで「給与・待遇が良い」(41.9%)、「福利厚生が充実している」(39.4%)と続くが、どちらも前年調査よりポイントが増えている。他に、「休日・休暇が多い」も20.6%から26.5%へと大きくポイントを伸ばしており、労働条件にこだわる傾向が強まっていることがわかる。大手企業を中心に引き続き採用意欲は高く、学生優位の売り手市場が予想されていることに加え、社会問題化しているブラック企業への警戒感などから、待遇重視の姿勢がよりはっきりと表れている。

一方、「仕事内容が魅力的」「社会貢献度が高い」などは年々ポイントが低下している。一昨年のデータと比較すると、「仕事内容が魅力的」は34.8%から23.5%へと、この2年で10ポイント以上(11.3ポイント)減った。「社会貢献度が高い」は同じく29.5%から20.4%へと9.1ポイント減少。就職環境の改善に伴い、学生の企業選びの基準は少しずつ変化している様子が見て取れる。

就職先企業を選ぶ際に重視する点(上位20項目)



※全31項目から5つまで選択

※「2016年卒者」は、2015年1月調査

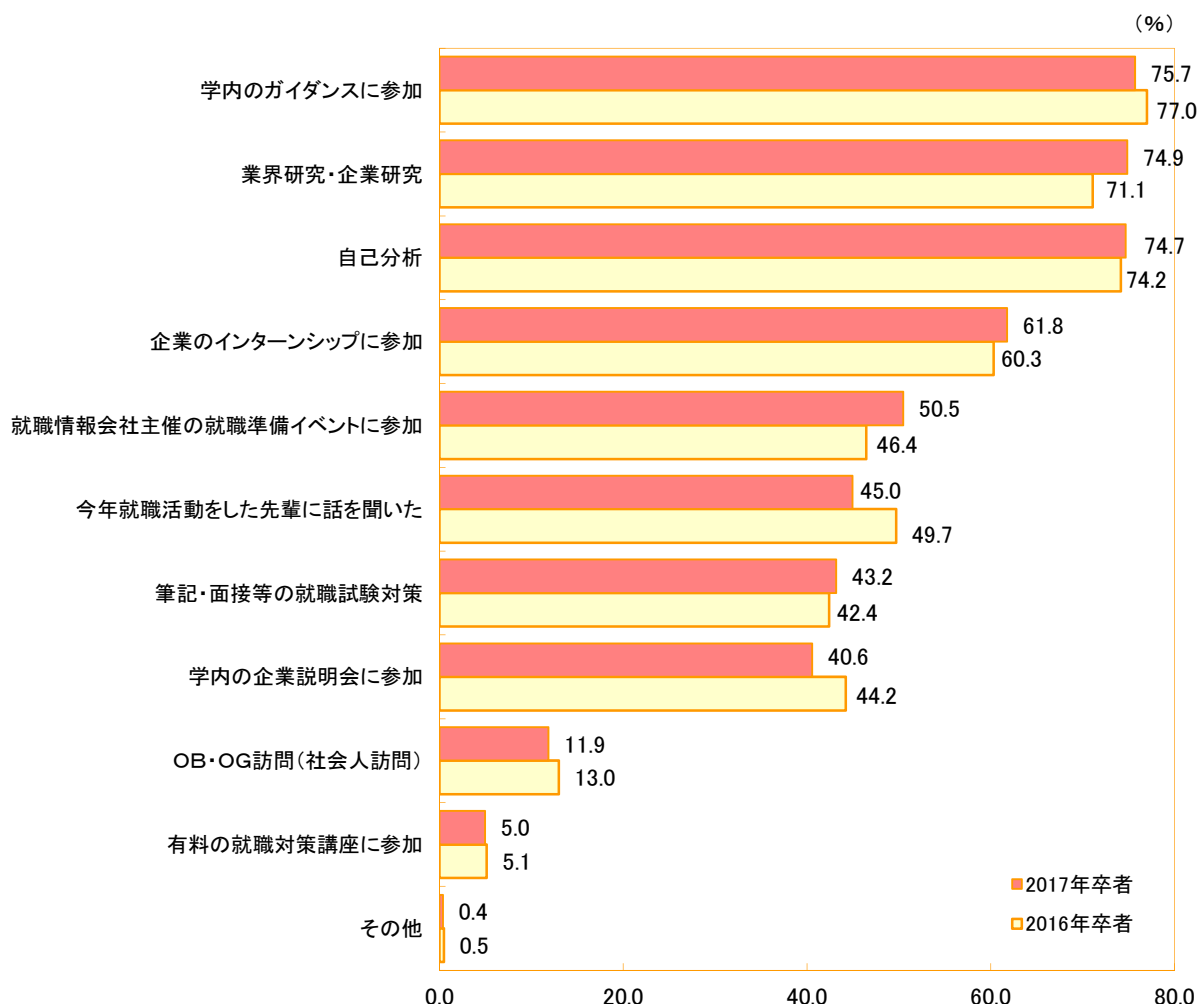
2. 就職活動準備に関して

1月1日時点で「就職活動の準備を始めた」と回答した学生は全体の98.7%で、11月の前回調査(97.3%)から微増した。

準備として行った内容は、「学内のガイダンスに参加」が75.7%で最も多かった。次いで「業界研究・企業研究」(74.9%)、「自己分析」(74.7%)と続く。「業界研究・企業研究」は前年同期調査では3位だったが、今年は3.8ポイント増えて2位となった。他に「就職情報会社主催の就職準備イベントに参加」も46.4%から4.1ポイント増えて過半数に達している(50.5%)。3月の就職活動解禁の前に、できるだけ多く業界や企業を知っておこうとの意向が読み取れる。選考開始時期が8月から6月へと2カ月早まる分、早めの対策が重要と捉えているのではないだろうか。

逆に、ポイントが減っているのは「今年就職活動をした先輩に話を聞いた」(49.7%→45.0%)や「学内の企業説明会に参加」(44.2%→40.6%)などであった。

就職活動準備でこれまでにやったこと



※「2016年卒者」は、2015年1月調査

3. 現時点の志望業界

1月1日時点での志望業界の決定状況は、「なんとなく決まっている」という学生が最も多く 55.5%で、「明確に決まっている」学生は11月調査(21.2%)より5.8ポイント増の27.0%と、就職活動準備が徐々に進んでいることがわかる。前年同時期(24.2%)よりもややペースが早い。

現時点での志望業界を40業界の中から5つまで選んでもらったところ、「銀行」が26.4%で最も多く、次いで、「水産・食品」21.0%、「医薬品・医療関連・化粧品」18.4%と続く。上位業界の顔ぶれは11月調査と変動は見られない。文理男女別に見ても、11月調査と大きな変動はなく、文系は男女とも「銀行」が首位で、理系は男子が「電子・電機」、女子は「医薬品・医療関連・化粧品」が最も多かった。

志望業界の決定状況

	全体	(11月後半調査)	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	27.0	21.2	24.2	27.9	19.7	37.3	24.8
なんとなく決まっている	55.5	57.3	55.9	56.4	56.2	50.0	61.1
決まっていない	17.4	21.4	19.9	15.7	24.1	12.7	14.1

(%)

志 望 業 界 (上位20業界)

※5つまで選択 (%)

全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1 銀行 ① 26.4	銀行 38.5	銀行 34.9	電子・電機 29.1	医薬品・医療関連・化粧品 49.2
2 水産・食品 ② 21.0	商社(総合) 24.3	マスコミ 26.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 21.1	水産・食品 43.0
3 医薬品・医療関連・化粧品 ③ 18.4	運輸・倉庫 21.3	保険 20.2	医薬品・医療関連・化粧品 20.7	素材・化学 37.5
4 マスコミ ④ 16.9	調査・コンサルタント 20.3	水産・食品 18.6	エネルギー 20.2	官公庁・団体 20.3
5 官公庁・団体 ⑥ 16.0	マスコミ 18.2	商社(専門) 18.2	情報・インターネットサービス 19.7	精密機器・医療用機器 13.3
6 商社(総合) ⑤ 15.5	水産・食品 17.9	ホテル・旅行 17.1	自動車・輸送用機器 18.8	印刷・パッケージ 12.5
7 調査・コンサルタント ⑦ 14.6	官公庁・団体 16.6	商社(総合) 15.9	素材・化学 17.8	農業・林業・鉱業 11.7
8 運輸・倉庫 ⑩ 14.4	商社(専門) 14.9	医薬品・医療関連・化粧品 14.0	官公庁・団体 16.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 10.2
9 素材・化学 ⑨ 14.2	保険 14.2	官公庁・団体 12.8	水産・食品 15.0	情報・インターネットサービス 10.2
10 電子・電機 13.2	エネルギー 12.5	信用金庫・労働金庫・信用組合 12.8	機械・プラントエンジニアリング 14.6	電子・電機 9.4
11 保険 ⑦ 12.6	建設・住宅・不動産 12.5	運輸・倉庫 12.4	調査・コンサルタント 14.1	エネルギー 9.4
12 エネルギー 12.3	電子・電機 11.1	調査・コンサルタント 11.6	運輸・倉庫 13.1	マスコミ 9.4
13 自動車・輸送用機器 11.2	自動車・輸送用機器 11.1	建設・住宅・不動産 11.6	通信関連 12.7	調査・コンサルタント 8.6
商社(専門) 11.2	信用金庫・労働金庫・信用組合 10.5	印刷・パッケージ 9.7	精密機器・医療用機器 10.8	銀行 8.6
15 情報・インターネットサービス 11.1	情報・インターネットサービス 9.8	百貨店 8.5	銀行 9.9	建設・住宅・不動産 8.6
16 建設・住宅・不動産 10.7	証券・投信・投資顧問 9.8	自動車・輸送用機器 8.1	商社(総合) 9.4	保険 6.3
17 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 9.8	素材・化学 8.1	人材紹介・人材派遣 8.1	建設・住宅・不動産 8.5	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 5.5
18 ホテル・旅行 8.6	ホテル・旅行 7.8	エネルギー 7.0	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 8.5	教育 5.5
19 信用金庫・労働金庫・信用組合 7.6	医薬品・医療関連・化粧品 7.4	教育 7.0	マスコミ 8.0	OA機器・家具・スポーツ・玩具他 5.5
20 精密機器・医療用機器 6.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 7.4	その他サービス 7.0	農業・林業・鉱業 6.1	自動車・輸送用機器 4.7
				運輸・倉庫 4.7
				通信関連 4.7
				商社(総合) 4.7

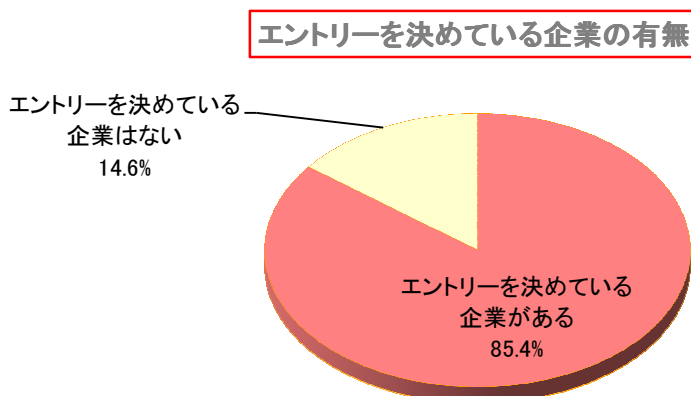
※○の中の数字は2015年11月後半同調査の全体順位10位以内

4. エントリーを決めている企業

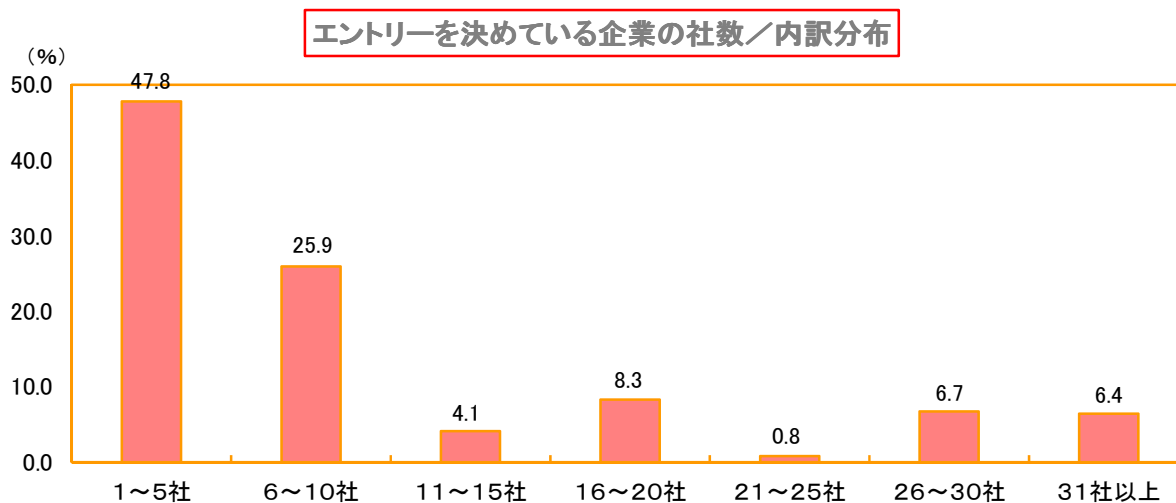
就職活動解禁 (3 月 1 日) まであと 2 カ月というタイミングで、どの程度志望企業を定めているのかを知るために、エントリーをしようとしている企業の有無を尋ねてみた。「エントリーしようとしている企業がある」と回答したのは全体の 85.4%に上り、前述したように、企業研究がかなり進んでいることを裏付ける。理系よりも文系で数値が高く、より早く決める傾向が見られる。

具体的にエントリーを決めている企業の数については、平均すると 12.5 社。志望企業決定状況と同様に、文系が多い (文系男子 14.1 社、文系女子 13.4 社)。

全体の分布を見てみると、5 社以下が半数弱 (47.8%) を占めるものの、一方で 21 社以上という割合も 1 割を超えており (13.9%)、学生によってばらつきが見られる。



	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーを決めている企業がある	85.4%	88.0%	84.7%	84.4%	82.6%
エントリーを決めている企業はない	14.6%	12.0%	15.3%	15.6%	17.4%
エントリーを決めている企業の社数(平均)	12.5社	14.1社	13.4社	11.3社	8.2社

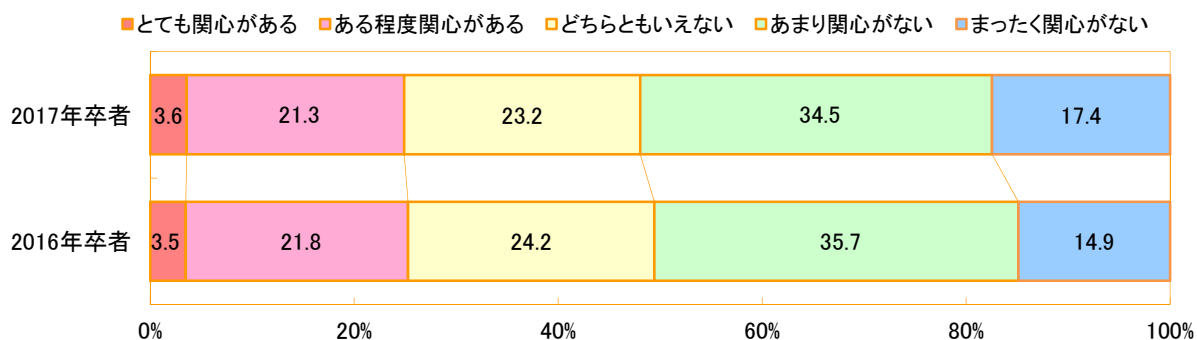


5. ベンチャー企業への関心

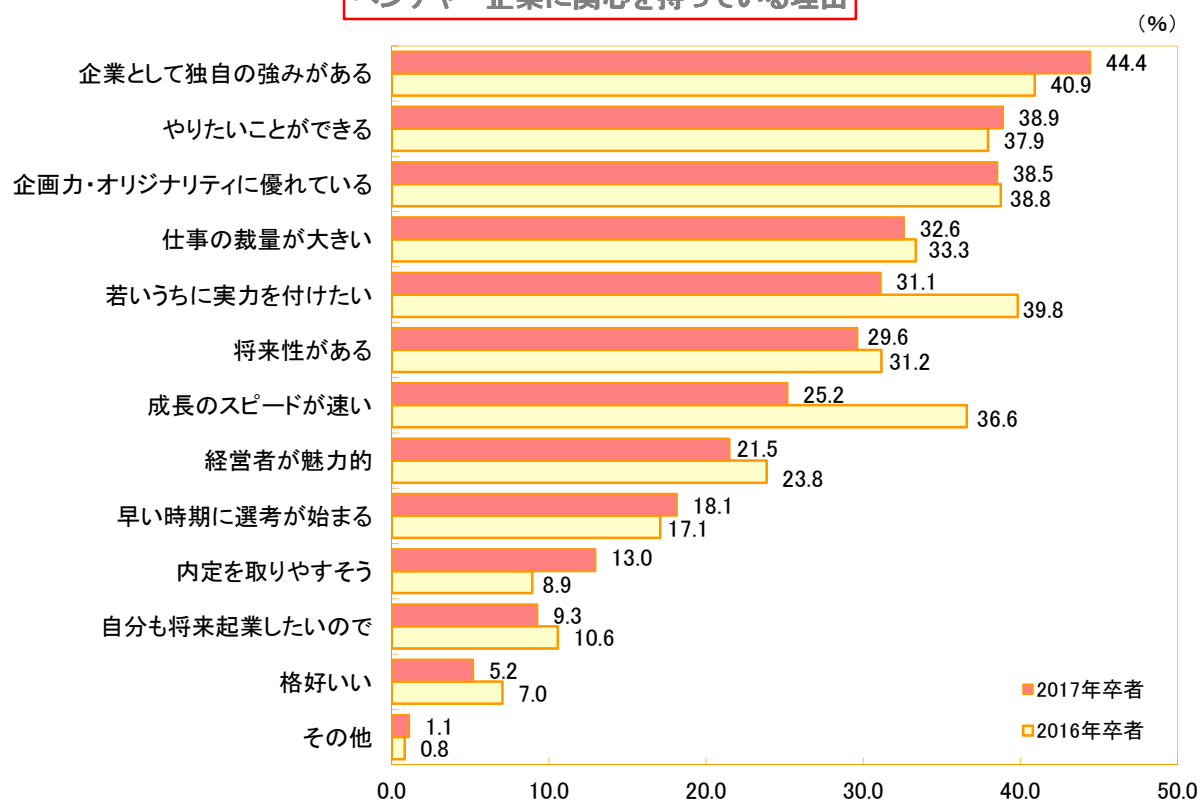
就職先としてのベンチャー企業への関心度合いを尋ねた。「とても関心がある」が 3.6%、「ある程度関心がある」が 21.3%で、4 人に 1 人がベンチャー企業への就職に関心があると回答した (24.9%)。前年の同期調査 (25.3%) と同水準であった。一方で、「まったく関心がない」が 14.9%から 17.4%へと増加。就職先企業を選ぶ際に重視する点 (前述) で、「大企業である」のポイントが増えていたこととも合致する (18.9%→20.4%)。

ベンチャー企業への就職に関心を持っている学生に、その理由を重ねて尋ねた。上位 3 項目は、「企業として独自の強みがある」(44.4%)、「やりたいことができる」(38.9%)、「企画力・オリジナリティに優れている」(38.5%) の順。これらの項目は前年調査とのポイント差は少ないが、「若いうちに実力をつけたい」は 39.8%から 31.1%へ (8.7 ポイント減)、「成長のスピードが速い」は 36.6%から 25.2%へ (11.4 ポイント減) と、大きく減少しているのが目立つ。早くから活躍できる環境や成長できる機会を求める割合が減ったことから、学生の安定志向が強まっていることが推測できる。

ベンチャー企業への就職関心度



ベンチャー企業に関心を持っている理由



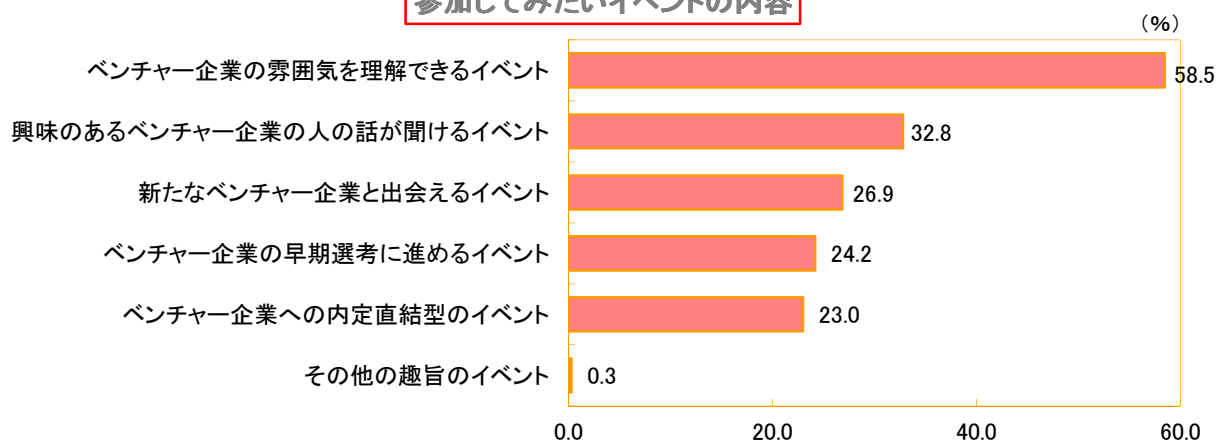
次に、ベンチャー企業に限定した就職イベントへの参加意向を尋ねた。全体の 62.2%が「参加したい」と回答し、ベンチャー企業への就職に関心のある学生の割合 (24.9%) を大きく上回った。参加してみたいイベントの内容としては、「ベンチャー企業の雰囲気を理解できるイベント」が 58.5%と圧倒的に多く、「興味のあるベンチャー企業の人の話が聞けるイベント」(32.8%)、「新たなベンチャー企業と出会えるイベント」(26.9%)と続く。就職活動解禁前ということもあり、様々な企業との接触機会を望んでいることが想像できる。

参考までに、「ベンチャー企業と聞いて思い浮かぶ会社」について具体的に社名を挙げてもらったところ、下記のような結果となった。新興企業というよりは人気 IT 企業が名を連ねる。すでにベンチャーと呼ぶには無理のある企業も多く、学生の考えるベンチャー企業は実態とズレていることも多いようだ。

ベンチャー企業に限定した就職イベントへの参加意向

	(%)				
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
参加したい	62.2	64.1	60.6	63.5	59.1
参加したいとは思わない	37.8	35.9	39.4	36.5	40.9

参加してみたいイベントの内容



※「ベンチャー企業に限定したイベントに参加したい」と回答した者が回答

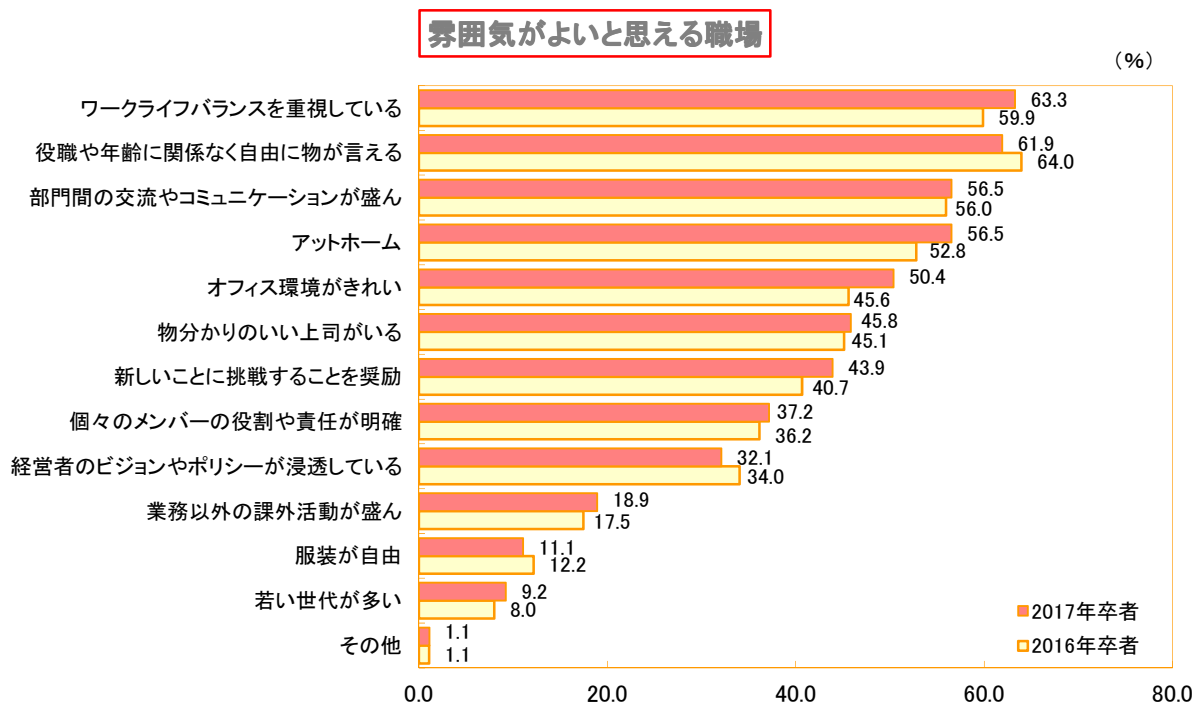
<参考> 「ベンチャー企業と聞いて思い浮かぶ会社」

企業名	票数	企業名	票数
1 サイバーエージェント	101	11 Speee	21
2 DeNA	77	12 クックパッド	17
3 ワークスアプリケーションズ	57	13 ライブドア	16
4 楽天	50	オロ	15
5 コロプラ	47	14 ソフトバンク	15
6 LINE	39	リブセンス	15
7 GREE	29	17 オプト	14
8 ユーグレナ	28	18 ミクシィ	13
9 レバレジーズ	27	19 ガンホー・オンライン・エンターテイメント	12
10 エイチーム	22	ビズリーチ	12

※具体的な社名を記入してもらい、集計した

6. 「雰囲気がよい」と感じる職場

職場の雰囲気は、企業選びの重要な要素の 1 つである (前述)。そこで、「雰囲気がよい」と感じる職場について尋ね、前年調査と比較してみた。最も多くが選んだのは「ワークライフバランスを重視している」(63.3%) で、女子が男子を上回るが (女子 70.6%、男子 57.3%)、男子も過半数が選んでおり、もはや男女共通の認識と言える。前年調査で 1 位だった「役職や年齢に関係なく自由に物が言える」(61.9%) は 2 位となった。次いで、「アットホーム」「部門間の交流やコミュニケーションが盛ん」(56.5%)、「オフィス環境がきれい」(50.4%)、「物分かりのいい上司がいる」(45.8%) と続く。快適なオフィスで、風通しのよい人間関係の中、バランスよく働ける職場を求める学生が多いようだ。



■就職活動に関して思うこと

○まだまだ売り手市場。6 月がピークになると、公務員との併願が厳しくなるので、ライバルは多少減ると思う。

<文系男子>

○事前に準備をしていれば、そこまで苦しくなることはないと思う。

<文系女子>

○理系学生はインターンシップに参加する時間がなく、文系学生との就活格差が生まれているように感じます。

<理系男子>

○解禁日が 6 月に早まり、一層企業研究の重要性が増したと思う。動き出しが早い人と遅い人で二極化している。

<文系男子>

○自分の中で、焦る気持ちとなんとかかなるだろうという気持ちがあり、なかなか本腰を入れて取り組めていない。

仕事に関してもかなり甘い考えを持っていることを自覚しているが、やはりハードな仕事は避けたいという思いが強い。

<文系女子>

○友達の中でもベンチャー企業などの面接に行く人が出てきて、少々焦りが出てきた。けっこうな割合で冬のインターンシップに参加していて、自分も参加しなくてはと思った。

<文系男子>

○現在、インターンシップや OBOG 訪問などをしていますが、6 月の本選考までにできれば内定をとりたいです。

研究開発職や製造系の職種を目指していて、その軸がブレないようにがんばります。

<理系男子>

○年末年始で中だるみがあったので、これから本格的に気持ちを入れ替えたいと思っています。

<理系女子>

7. 就職後のキャリアプラン

現時点で考える就職後のキャリアプランを尋ねた。「一つの会社に定年まで勤めたい」という回答が 49.4%で最も多いものの、前年調査 (55.3%) より 5.9 ポイント減少。9 年ぶりに半数を割り込んだ。代わりに「一つの会社にこだわらず、転職などでキャリア・アップを図りたい」という回答が 33.1%へと増加した。転職想定組が 3 割を超えるのは 2007 年卒者以来のことだ。

過去のデータを振り返ると、就職環境が厳しい時期は「一つの会社に定年まで」が増加し、新卒での就職を一生ものと捉える傾向が強まり、就職環境が好転すると減少する傾向が見られる。2008 年のリーマン・ショック後の氷河期には 6 年にわたり「一つの会社に定年まで」は 6 割弱で推移してきたが、売り手市場と言われてきたここ数年は徐々に減少し、今回半数を下回った。就職環境の改善は、このような意識の変化にも影響を与えているようだ。

就職後のキャリアプランの推移

- 一つの会社に定年まで勤めたい
- 一つの会社にこだわらず、転職などでキャリア・アップを図りたい
- ある程度会社勤めをしたら、いずれは独立・起業したい
- ある程度会社勤めをしたら、いずれは家庭に入りたい
- その他



就職後のキャリアプラン(2017年卒者)

- 一つの会社に定年まで勤めたい
- 一つの会社にこだわらず、転職などでキャリア・アップを図りたい
- ある程度会社勤めをしたら、いずれは独立・起業したい
- ある程度会社勤めをしたら、いずれは家庭に入りたい
- その他

